

時短の秘密は現場の知恵

2坪のプレハブ小屋や現場のグループ化で着実な成果

現場では技術者が減らされ、作成すべき書類は増えている。休日出勤や残業時間を減らせるわけがない——そう考えている現場技術者にぜひ読んでほしいのが大和小田急建設の試みだ。既存の制度に頼らず、現場技術者が自ら打開策を提案して時短を实践。帰宅時間が2時間早まり、休暇が増えるなどの成果が出た。優れた提案は他現場に水平展開している。

現場の敷地内に設置したわずか2坪のプレハブ小屋。この小さなスペースに、帰宅時間を2時間以上も早める大きな工夫が隠されていた。現場で数十分ほど手が空くたびに、プレハブ小屋で必要な書類をこまめに作成。現場の作業が終わった後の書類作成を極力減らした。現場技術者が「早く帰りたい」と自ら考えた時短のアイデアだ。

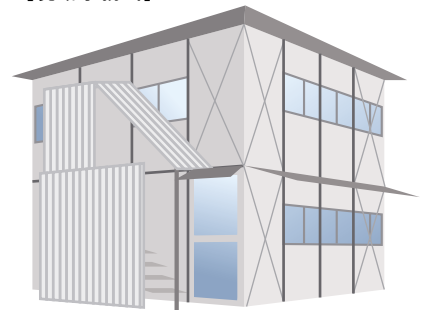
大和小田急建設が施工した高架橋下部工事の現場は、交差点に隣接した場所にあった。近くに現場事務所を設置できる敷地はなく、車で往復数十分もかかる場所で借りざるを得なかった。

現場の技術者が長時間労働を強いられるのにはいくつかの理由がある。何があっても工期を厳守しようとするのがよく指摘されるが、作成す

[現場]



[現場事務所]

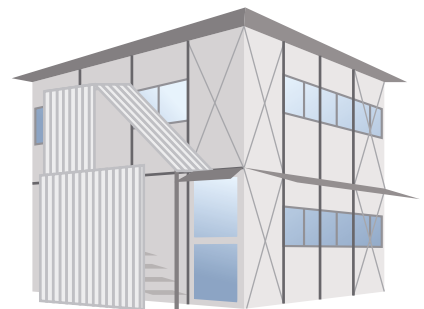


現場の近くに事務所を借りられない場合、往復で数十分かかることもある

現場敷地内に2坪のプレハブ小屋を設置



手が空いた際にすぐ書類作成などの作業が可能に



(注)大和小田急建設への取材をもとに本誌が作成

べき書類が多いこともその一つだ。

「現場の作業が終わる午後6時から事務所に戻って、書類を作成しなければならなかった。ほぼ毎日3時間ほど残業していた」。同現場に赴任していた大和小田急建設建設事業本部土木部土木工事課の吉田尚史課長補佐はこう話す。作成しなければならない書類は、専門工事会社との打ち合わせ書類や歩掛かり集計表、立会確認書類、毎日の工程表など多々ある。特に作成に慣れていない若手にとって重荷になる作業だ。

「現場は確かに忙しいが、ずっと手が離せないわけではない。30分ほど手が空く場合が多い」（吉田課長補佐）。事務所が現場の近くにあれば、手が空いたときに書類を作成することが可能だが、往復で数十分となれ

ばそうはいかない。そこで吉田課長補佐が考えたのが、現場の敷地内にプレハブ小屋を設置する工夫だった。

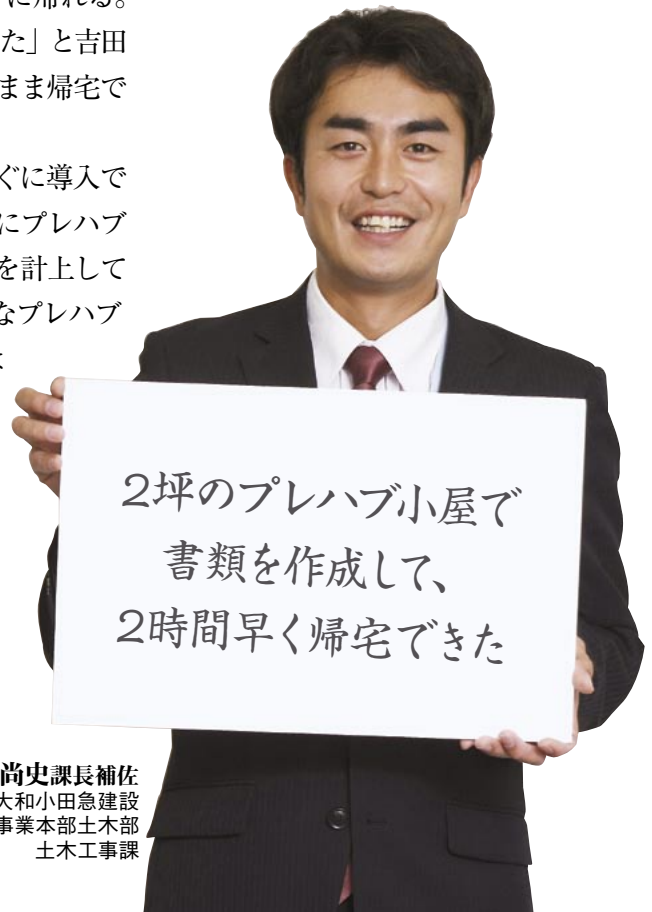
「時短で費用を賄う」と説得

プレハブ小屋にはパソコンとプリンターを置き、空いた時間を使ってすぐに書類の作成ができるようにした。「プレハブ小屋で作成した書類を事務所で整理してすぐに帰れる。2時間は帰宅時間が早まった」と吉田課長補佐。現場からそのまま帰宅できた日もあったという。

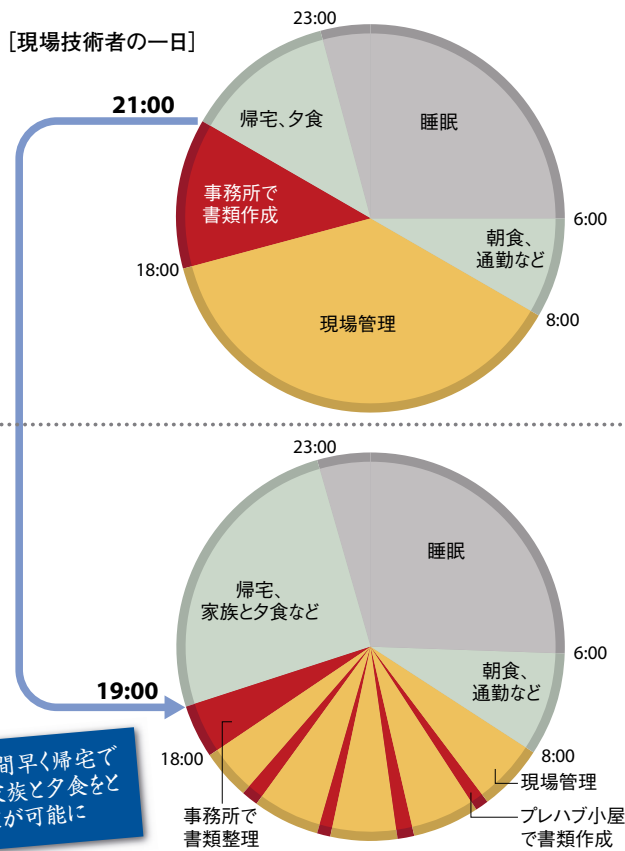
ただし、思いつきですぐに導入できたわけではない。予算にプレハブ小屋を借りるための費用を計上していなかったからだ。小さなプレハブ小屋をリースする費用は月に約1万円。「どうやっ

て経費を賄うのか」と上司の工事課長や現場所長に聞かれ、吉田課長補佐は「現場技術者の残業代削減で捻出する」と説得した。「結局、収支はプラス。プレハブ小屋を導入したことで、家族と夕食をとにもすることもできるようになった」と吉田課長補佐は表情をほころばせた。

(写真:44ページまで特記以外は柚木 裕司)



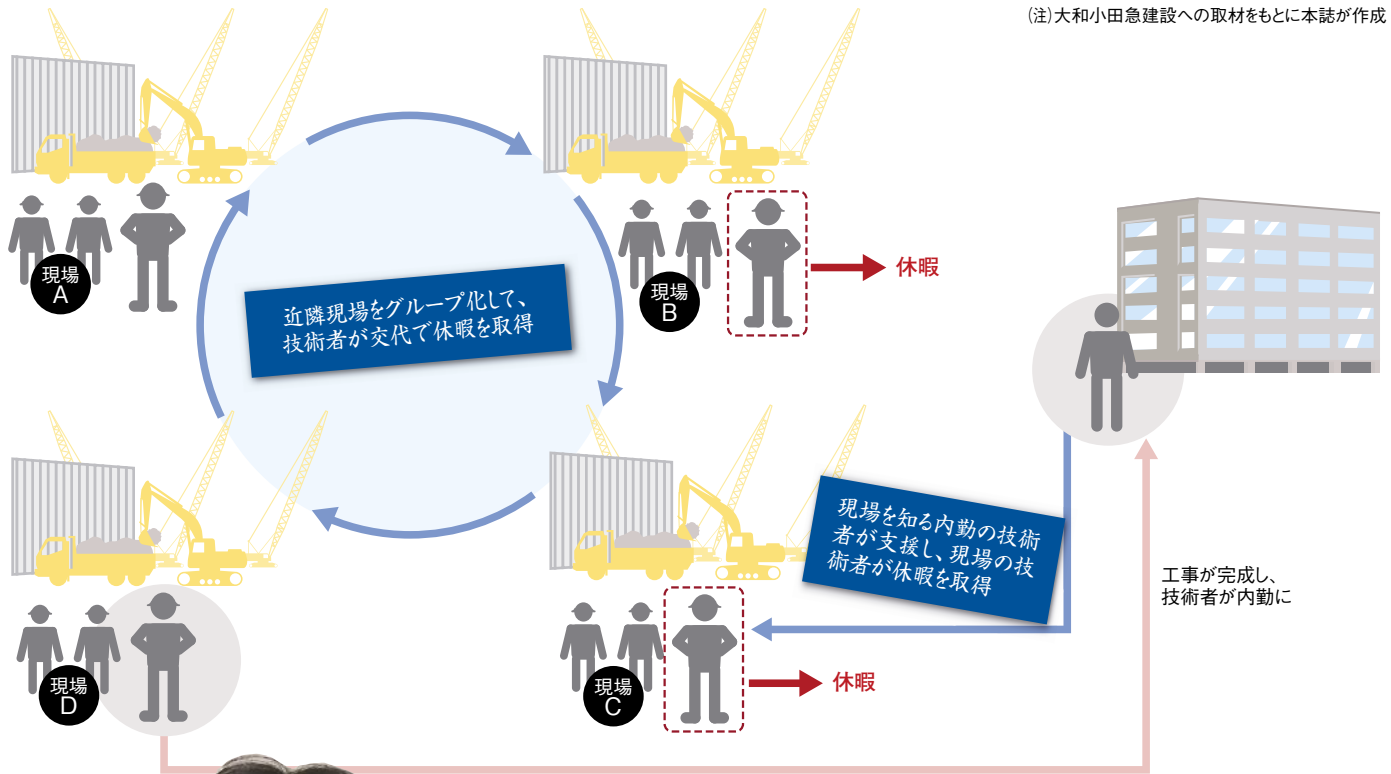
吉田尚史課長補佐
大和小田急建設
建設事業本部土木部
土木工事課



2時間早く帰宅でき、家族と夕食をとることが可能に



現場の敷地内に設置された二人用のプレハブ小屋。パソコンとプリンターを常備している
(写真:大和小田急建設労働組合)



現場同士が協力すれば休める

現場の忙しさには波がある。大和小田急建設では、そんな現場の特性に着目した対策も実践している。技術者が繁忙度に応じて互いに現場を支援するアイデアだ。

プレハブ小屋と同じく、現場技術者が提案した。取り組みを主導した大和小田急建設人事部の木沢英治課長（当時は土木部土木工事課課長）は「自分の現場で手が空いているときに、隣の現場が突貫で進んでいる場合がある。近隣の現場技術者が支援すれば、ずっと休めていない技術者が休暇を取れる。事例をつくるためにも取り組みたかった」と話す。

大和小田急建設が施工した高架橋下部工事は、四つの現場が約5km

ごとに並んでいた。工期はそれぞれ異なり、忙しくなる時期も違った。

四つの現場の技術者は共同で工程表を作成。休日にも作業せざるを得ない場合には、交代でほかの現場の技術者が支援し、忙しい現場の技術者が休暇を取れる体制を整えた。各工事の人員配置の決定権がある工事課長も「それで休暇が取れるならやってみよう」と賛同した。

内勤の技術者も現場を支援

支援したのは現場の技術者だけではない。四つの現場で最初にしゅん工した現場を担当していた木沢課長は、内勤の管理部門に異動した後もサポートした。

「ほかの三つの現場には何度か支援に出向いたので、工事の内容や流れは把握していた。内勤の技術者が現場を支援したっていいじゃないかと思った」（木沢課長）。突発的な作

現場間で
技術者が協力して
交代で休暇を取得

木沢英治課長
大和小田急建設人事部

業で現場が忙しくなったときには、率先して現場を支援した。

吉田課長補佐は、交代で休暇を取った技術者の一人だ。「交代で計画的に休めるので、家族旅行に出かけることができた。同じ休暇でも、雨が降って突然休みになったのとは別物だ」と取り組みの効果を話す。

珍しい現場でのノー残業デー

木沢課長の現場と吉田課長補佐の現場では、大和小田急建設労働組合の「レクリエーション制度」を利用したノー残業デーも導入した。組合員が体育館やグラウンドを借りてスポーツなどの活動をする場合に、労働組合が補助する制度だ。

水曜日か木曜日を毎週必ずノー残業デーにしてフットサルで遊んだ。「みんなで楽しむのが前提なので、『今日は行けない』と誰かが言う、『じゃあ手伝うよ』という雰囲気になった。若手とのコミュニケーションも取れた」(木沢課長)。

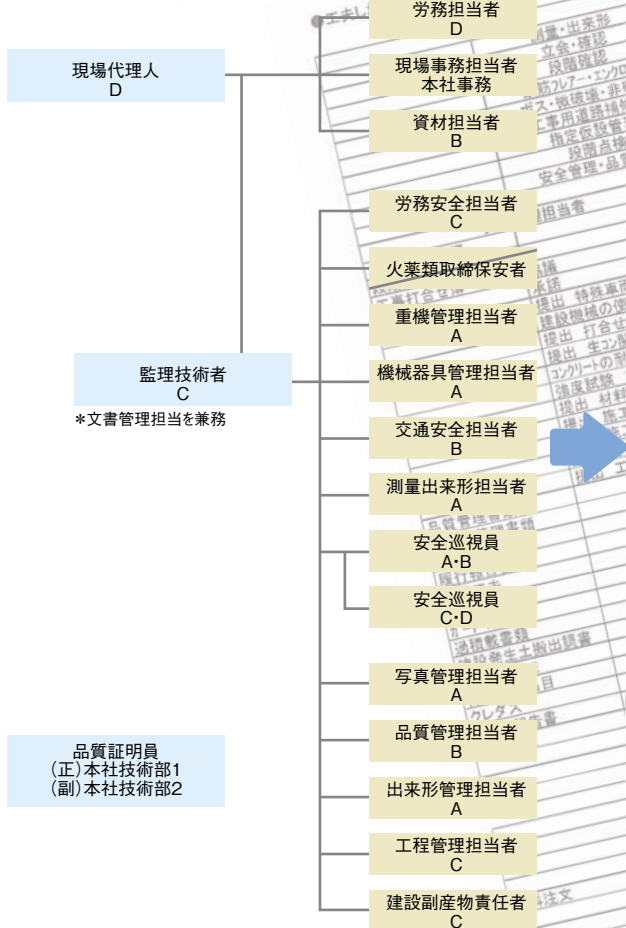
ノー残業デーを実施できたのは、現場の工程が守られていたからだ。工程管理のために、役割分担表を大幅に見直した。従来は作業ごとに担当者のみが記載されていたが、それに加え、担当補助者と実施期限を明記。分担する項目を従来のものより細分化した。担当者が休んでも作業が滞らず、いつ誰が忙しいかが明確になったという。

「発注者にも『この日はノー残業デーなので打ち合わせを早い時間にしてください』と要請している。工事がきちんと進んでいれば、発注者も協力的だ」と木沢課長は話す。

労使協働で時短が広がる

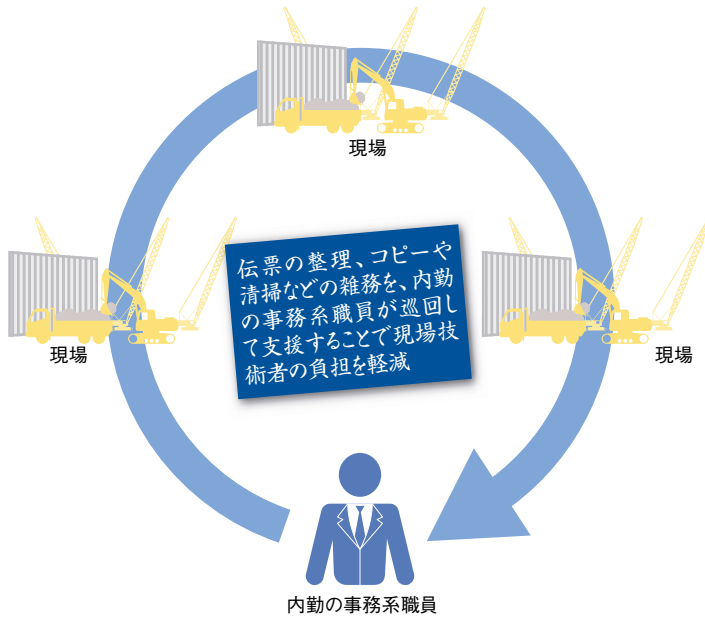
大和小田急建設は会社主導でも時短に取り組んでいる。例えば建築物の増改築を担当するリニューアル事業本部では、内勤の事務系職員が現場の支援に当たる。インターネットでファイルを共有し、現場の責任者が支援を希望する日にちを記入。現場に赴いた内勤者が、伝票などの日常書類の整理や簡易図面の修正、コピー、清掃などを担当する。プレハ

●従来の役割分担表



●項目を細分化した役割分担表(抜粋)

項目	担当		担当補助	期限
	A	B		
現場	測量、出来形	A B	C	随時
	立ち会い、確認	A B	C	随時
	段階確認	A B	C	随時
	鉄筋フレアー、エンクロなど	A	C	随時
	ボス、微破壊、非破壊	B	A	随時
	工事用道路補修工	B	A	随時
	指定仮設管理	A	B	随時
	段階点検	A	B	随時
	安全管理、品質管理	A B	C D	随時
	書類	C		
文書管理担当者	C			
立ち会い、確認書類	A B	C C	C	随時
段階確認書類	A B	C C	C	随時
工事打ち合わせ簿	協議	C	D	随時
	承諾	C	D	随時
	提出 特殊車両関係	A	B	随時
	建設機械の使用報告	B	A	随時
	提出 打ち合わせ議事録	C	D	随時
	提出 生コン関係	A	B	随時
	コンクリートの耐久性向上対策	B	C	随時
	強度試験 立ち会い	A	B	試験日
	提出 材料関係	A	B	施工前
	提出 施工体制台帳	C	D	施工前
	提出 施工計画書	C	A	施工前
	提出 その他	A	C	随時
	提出 工事カルテ	C	D	随時



(注)大和小田急建設の資料をもとに本誌が作成

得した割合は日建協平均の11.2%に対し36.7%と極めて高い。

大和小田急建設労働組合の原伸治郎書記長は次のように説明する。「会社と労働組合が協力した成果だ。現場異動時休暇制度は、『Q&A集』を労使が協力して作成し、社員に配布した。他社の労働組合からも『参考にしたい』という声がある」。現場から出てきたアイデアは労働組合でまとめ、労使協議会に提出する。「プレハブ小屋での書類作成や近隣現場のグループ化も、会社として取り組むことに決まった」(原書記長)。

木沢課長も取り組みの広がりを感じている。「一緒に現場に赴任していた若手の技術者が、次の現場でプレハブ小屋やグループ化を検討している。そうやってつながっていけば、さらに技術者の時短への意識は高まる」と手ごたえをつかんだ様子だ。

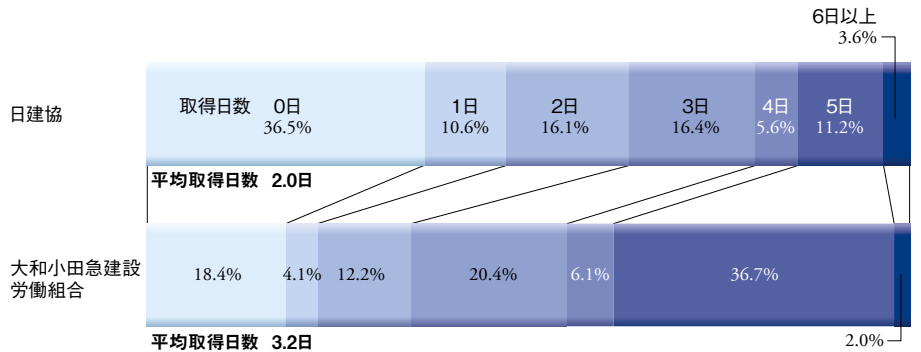
プレハブ小屋と同じく、書類作成での残業を減らすための工夫だ。

現場から出てきた工夫や会社主導の取り組みによる時短への意識の高さは、数字に表れている。例えば現

場から異動する際に取得できる現場異動時休暇。日本建設産業職員労働組合協議会(日建協)の平均取得日数が2.0日なのに対し、大和小田急建設の組合員の平均は3.2日だ。5日取

●現場異動時休暇の取得率が高い大和小田急建設の組合員

(資料:大和小田急建設労働組合)



原伸治郎書記長
大和小田急建設労働組合



時短の工夫	効果
・現場の敷地内に2坪のプレハブ小屋を設置	・空いた時間に書類作成が可能になり、帰宅時間が2時間以上早まった
・近隣現場をグループ化	・技術者が交代で休暇を取得することが可能になった
・内勤の技術者が現場を支援	
・役割分担表を従来のものより細かく設定、担当補助者と実施期限も明記	・いつ誰が忙しいのかが明確になり、支援しやすくなった ・担当補助者がいることで、担当者が休暇を取得しても業務が滞らなくなった
・内勤の事務系職員が現場の書類作成を支援	・書類作成の時間が短縮し、帰宅時間が早まった